

皆に感謝

中 一

ぼくは、生後三か月から埼玉県立小児医療センターにずっと入院をしていました。そのときの後遺症で特に右手が上手に動きません。そのため、今でも「作業療法」と呼ばれる、右手や右足を上手に動かすためのリハビリに通っています。

そんなぼくですが、小学三年生のとき、仲よしの友達に誘われて、金管バンドに入ることになりました。担当することになった楽器はトランペットです。本当は、トランペットは右手で音を変えるのですが、右手が思うように動かないぼくは左手を使って演奏することにしました。もちろんそんなことをしているのはぼく一人だけです。金管バンドは学校の活動ではありませんが、土曜日の午後を中心に練習しています。最初は叱られるのではないか、「違うよ。」と言われるのではないかとドキドキしながら練習に参加しました。けれど、金管バンドで一緒になった先生はもちろん、友達も、そして先輩もそんなことは一言も言いませんでした。

た。それどころか、口元の筋肉が少し弱くて吹くまでに人一倍時間がかかったぼくに、やさしく丁寧に教えてくれました。最初は仲よしのAさんが誘ってくれたから、という理由で参加した金管バンドでしたが、そのうちに先輩たちの格好よく楽器を演奏する姿や優しく教えてくれる姿に、ぼくもこんな風になりたいと思って練習するようになりました。

ところが、一年がたち、ぼくを金管バンドに誘ってくれたAさんは違う県の学校へ転校することになりました。金管バンドの男子の人数も減り、母から、

「Aさんはいなくなるけど金管バンドは続けるの？」と聞かれました。僕は、迷わずに、

「うん、続けるよ。」と答えました。

そして四月。Aさんだけではなく、他にも転校する友達や金管バンドを辞める友達がいたり、逆に新しい三年生が入ったりして、ぼくの右手が動かないことを知らない人も増えました。でも、何も変わりありませんでした。

先輩たちは、一年たっても他の友達よりうまく

演奏できないことが多いぼくに根気強く教えてくれました。友達は男女関係なく仲よくしてくれました。そして、真面目にこつこつと努力していくと、だんだんと演奏できる曲が増えてきました。

その頃、リハビリについても話がありました。今までは月に一回程度、個別でリハビリをしていましたが、だんだん手が上手く動くようになっていきました。それで話をすると、手が上手に動かないのに楽器を演奏しているのはぼく一人だけでした。改めてぼくはとてもいい先輩や友達に恵まれたなと思いました。

金管バンドを四年間続けて卒業し、中学校では吹奏楽部に入りました。担当する楽器は変わりましたが、先輩たちはとても優しく、出せない音があつたときには、「慣れだからね。頑張つて。」と励ましてくれました。

吹奏楽部では、「立派な演奏ができる前に、立派なB中生であること。」を掲げています。ぼくも、先輩方のように、後輩にも友達にも優しいB中生

になるように頑張ります。